

立命館大学 国際関係学部

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL: 075-465-1211 E-mail: irpost01@st.ritsumei.ac.jp



先生方のプロフィール、先輩のメッセージなど
最新の情報はこちら

www.ritsumei.ac.jp/ir/

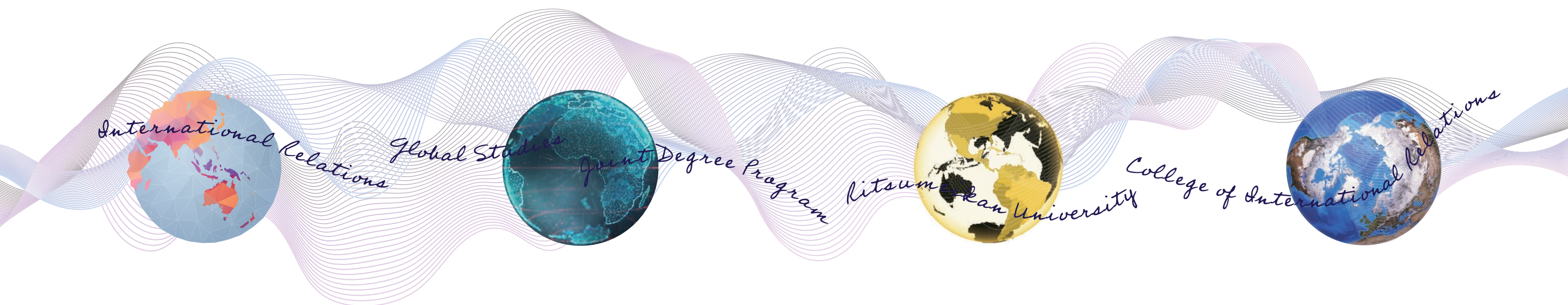


R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

立命館大学 国際関係学部

Window to the World

日本から地球を、地球から日本を見る。



AY2022

RITSUMEIKAN UNIVERSITY COLLEGE OF
INTERNATIONAL RELATIONS

Message from Dean

最先端を 走り続ける。

学部長メッセージ

Evolving College of International Relations

国際関係学部 学部長
河村 律子



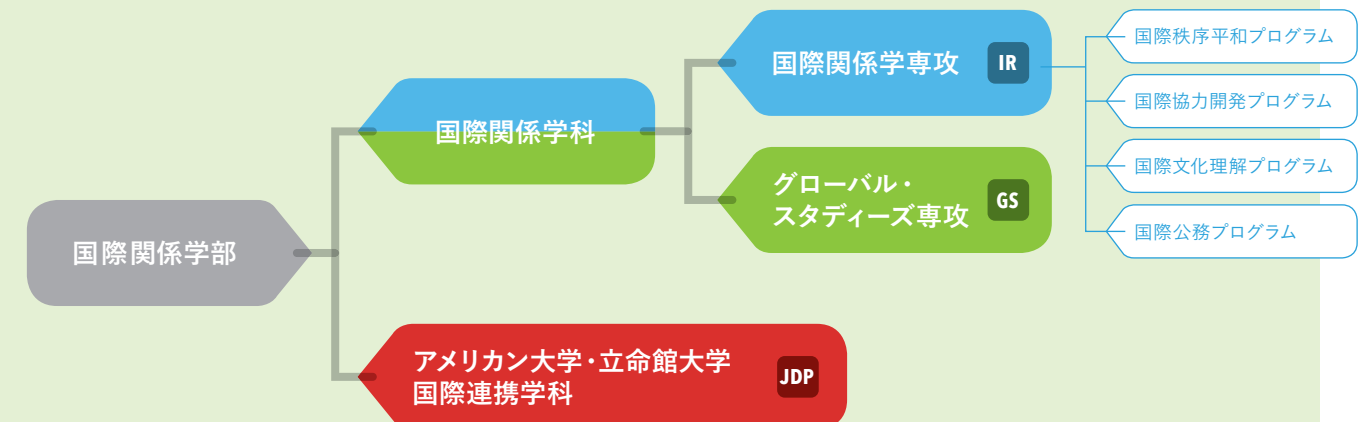
立命館大学国際関係学部は1988年に西日本初の国際系学部として設立され、30年以上にわたって国際関係学教育・研究の地歩を切り拓いてきました。

現在の国際社会は、多様で複雑な課題が山積しています。それらは、国家間の対立を伴う武力紛争や経済摩擦、移民問題、国の枠を超えた気候変動、資源、生物多様性など、一朝一夕に解決できないものばかりです。また、2020年初頭から世界を襲った新型コロナウイルス感染症パンデミックは、グローバル化した世界状況を如実に示すものとなりました。パンデミックの克服とポストコロナ社会の構築には、国際的な協力が欠かせません。こうした状況において、国際社会の諸課題に果敢に取り組む国際関係学は、ますます重要性を高めているのです。

わたしたちは、学生のみなさんが広い視野と見識、柔軟な思考力を養い、新しい可能性に挑戦しつづける力をつけることを願っています。本学部の多様なバックグラウンドを持つ教員がみなさんを力強くサポートします。「立命国関」はこれからも国際社会の課題に挑戦し続け、時代の先端を行く学部として発展していきます。

Departments, Majors & Programs

学科・専攻・プログラム



IR GS 国際関係学科

国際関係学部は、世界各地の学生が高い志を持って集う多文化共存の空間です。多様なバックグラウンドを持った、学生、教授陣が集っています。国際的に教育・研究・社会貢献を行う教員、国際社会のさまざまな分野で活躍してきた客員教授、そして、日本で数人しかいない珍しい専門領域を持つ教員たちから新たな発見や閃きを得

ることができるでしょう。多文化が融合する空間で学び、国際的な感覚と知性を磨き、世界が求めるグローバルな見識と行動力を養います。現代の国際社会が抱える問題を多面的に探求し、既成概念にとらわれずに自分の頭で考え、問題解決に挑みます。

主に日本語で学ぶ国際関係学専攻と英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。

多くの科目で、同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講しています。クロス履修システムを活用することで、国際関係学専攻の学生は関心ある科目を英語で学ぶことができ、グローバル・スタディーズ専攻の学生は日本語による科目を受講することができます。

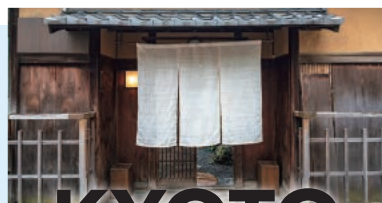
JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

1994年、国際関係学部は日本国内で初めてDUDP（デュアル・ディグリー・プログラム）を導入しました。そこからスタートしたアメリカン大学との長期に渡る教員の相互派遣や教員および職員間の交流を経て、2018年には、DUDPをさらに進化させた学部レベルでは日本初となる国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）を

アメリカン大学と共同で開設しました。プログラムでは、西欧中心に築かれた学問体系である「国際関係学」を、さらに日本を含む非西洋の視点を取り入れ発展させた「グローバル国際関係学」の修得を目指して京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、単一の共同学位（BA in Global IR）を取得します。



IR AT A GLANCE



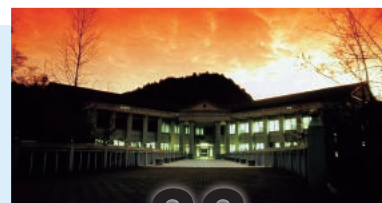
KYOTO
a City of Culture and History

文化と歴史の街であり、大学の町である京都、衣笠キャンパスで学びます。



277
International Students

世界の26カ国・地域から集った277名の留学生がともに学びます。



33
Years of History

1988年、西日本で初めての国際系学部として開設されました。



96
Courses offered in English

英語開講科目は96にのぼり、専門を「英語で」学ぶことにチャレンジできます。



8,000+
Alumni

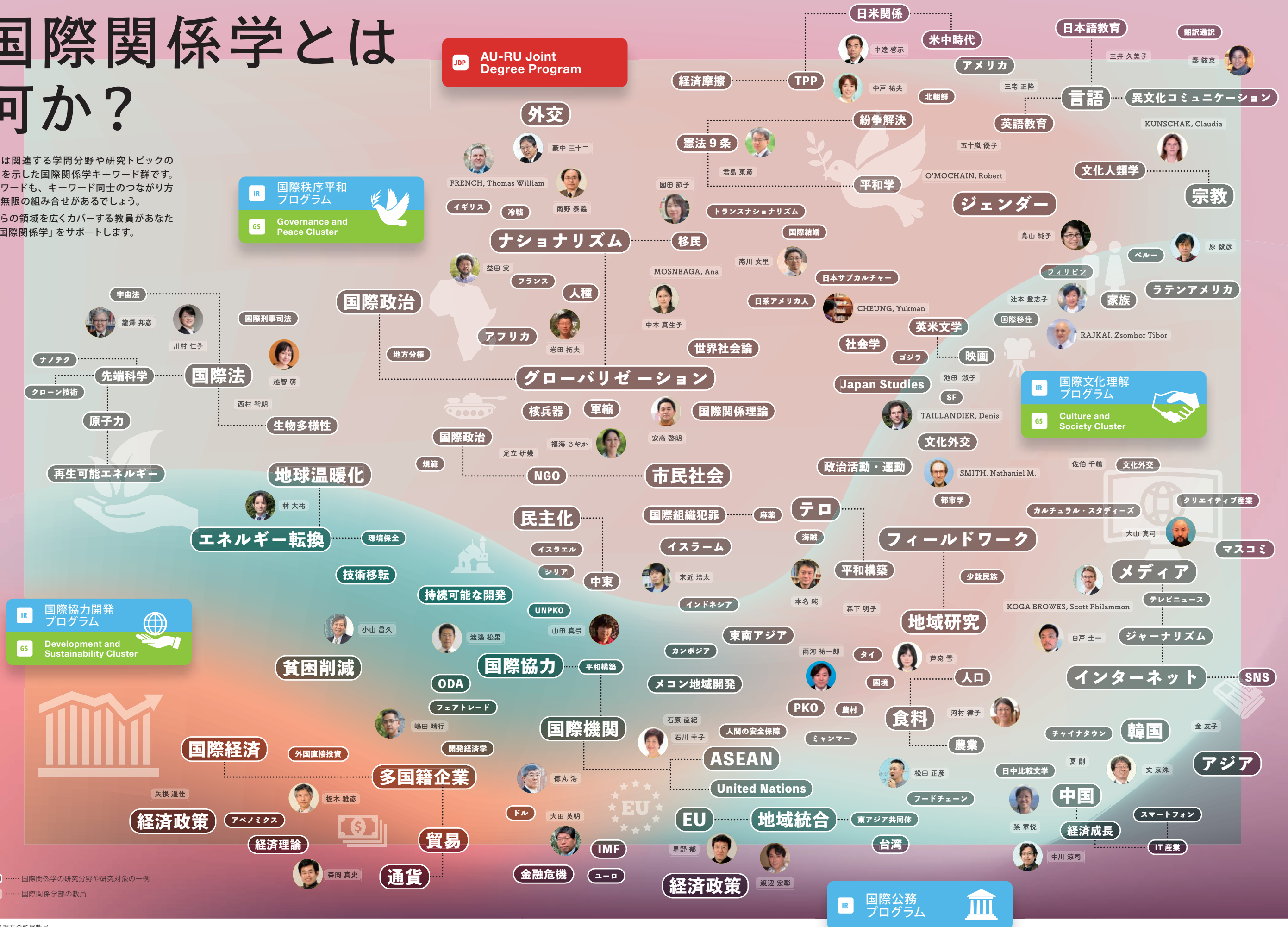
グローバル企業、外務省、国際機関、NGOなど各分野で8,000名以上の卒業生が活躍しています。

立命館大学国際関係研究科は
日本唯一の
APSIAのメンバーです。

APSIA (Association of Professional Schools of International Affairs) とは、国際関係・安全保障・平和問題、といった国際関係学が取り扱う諸問題に関する教育の実施と、この分野における高度専門知識を持つ人材の養成を目的に設立された非営利組織です。ハーバード大学、コロンビア大学、エール大学、アメリカン大学などが加盟しており、日本からは、立命館大学国際関係研究科が唯一の正規会員として加盟しています。

これは関連する学問分野や研究トピックの一部を示した国際関係学キーワード群です。キーワードも、キーワード同士のつながり方も、無限の組み合わせがあるでしょう。

これらの領域を広くカバーする教員があなたの「国際関係学」をサポートします。



多文化が融合する空間で学ぶ。

国際関係学科

Department of International Relations

国際関係学専攻

International Relations Major

IR

国際秩序の動態を歴史、法、政治、解決・実現方法の四つの角度から学ぶ「国際秩序平和プログラム」。持続可能でバランスの取れた国際協力や開発のあり方を学際的、体系的、実践的に探求する「国際協力開発プログラム」。国際社会の政治・経済構造と文化の関係、異文化理解の方法、異文化衝突の問題などを学び多文化共生の道を探る「国際文化理解プログラム」。国際機関、国家および自治体の公務行政について学ぶ「国際公務プログラム」。個々の関心事に沿ったプログラムを選択し、より専門的に深めていきます。



国際秩序平和プログラム

国際社会のダイナミズムを学び、新しい国際秩序のあり方を探る

国際秩序の歴史と現在、そして新時代の展望を、国際政治・国際関係論・国際法・国際経済などの分野から総合的に学修。戦争・平和・人権から、紛争や経済摩擦まで、幅広い問題を解決するための新たな手法を探ります。



国際協力開発プログラム

持続的な社会と経済発展を両立する国際協力・開発援助のあり方学ぶ

途上国の現状や国際協力・援助など、国際的な社会・経済発展の条件や貧富の格差の問題を実践的に学修。政府や国際機関による国際協力だけでなく、企業やNGOなどの活動も視野に入れながら諸問題の解決策を探ります。



国際文化理解プログラム

高度な異文化理解力を身につけ、共生社会の実現にアプローチ

グローバル化が進む現代において、多様な文化や価値観を尊重しあい、共生社会を育てて行くことは重要なテーマです。さまざまな文化や社会を比較考察し、多文化共生の道を探ります。



国際公務プログラム

国際関係の学びを国内外の行政キャリアへと繋ぐ少人数教育

外交官をはじめとする国家公務員や国連職員、地域を支える地方公務員など、行政を担うキャリアをめざす学生が切磋琢磨しながら、グローバルな公共政策や国内外の行政に関する実務と理論を学びます。



グローバル・スタディーズ専攻

Global Studies Major

GS

2011年に開始した「国際関係学」を英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。開設当初は1学年60名でスタートしましたが、強い要望に応え、2018年からは1学年100名に定員を拡大しました。今では28カ国以上から集まる学生と11カ国から集まる教員が多様な文化を抱える学びの集団を形成しています。2018年度カリキュラム改革を経て、プログラム間の境界を越えて自由に科目を選択できる、より学際的なコースを提供します。

This major seeks to stimulate a systematic learning, while going beyond the borders of academic, scientific, disciplines. The program is designed to be flexible, with students able to design their learning programs based on their interests and career goals. The program puts a focus on courses related to Japan and Asia and has increased these courses. In the first year, students take a range of introductory and foundation courses as well as academic skills courses, which develop a foundation for their studies in English. From the second year, students start their study of core courses choosing from a mixture of 3 clusters detailed below.

Governance and Peace Cluster

International Law, Security Studies, Global Political Economy, Comparative and Global Governance, Peace and Conflict Studies, International Organization, International Human Rights, Advanced Topics in International Relations



Development and Sustainability Cluster

Development Studies, Global Environmental Issues, Microeconomics, International Trade and Investment, International Finance, Global Civil Society and Development, Advanced Topics in International Relations



Culture and Society Cluster

Race and Ethnicity in the Modern World, Media and Society, Cultural Awareness and Communication, Global Sociology, International Migration, Topics in Identity, Advanced Topics in International Relations



国際政治の中枢で学ぶ。

アメリカン大学・立命館大学 国際連携学科

JDP

American University-Ritsumeikan University Joint Degree Program

アメリカン大学と立命館大学が共同で開設する国際連携学科(ジョイント・ディグリー・プログラム)では、京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、共同学位(学士「グローバル国際関係学」)を取得します。世界の動きを肌で感じながら、専門分野に加えて語学力を伸ばし、国際感覚を培うことができます。アメリカン大学は、国際関係学において全米9位(学部)*。1963年の卒業式では、ケネディ大統領が「平和の戦略」の演説を行う等、オバマ大統領をはじめとする歴代の大統領が訪れる大学です。日本の伝統文化と革新の気質が融合する京都と、激動の政治の中心に位置するワシントンD.C.。二つの都市での学びは、歴史・文化そして国境を超えた人との交わりを可能にし、世界中の人々とのネットワークを築き、グローバル・リーダーの精神を育みます。

* Foreign Policy Magazine (2018)のランキング



グローバル国際関係学とは

JDPでは、西洋の国際関係学の枠組みを超えた、「グローバル国際関係学」を修得することを目指しています。これまでの「国際関係学(IR)」は、西洋、とりわけ英米的視点によって発展してきましたが、国際社会の多元化に伴い非西洋的視点の必要性が国際関係学の世界でも主張されています。こうした状況のなかで、非西洋社会に位置しつつも西洋をモデルとした近代化を成し遂げた日本社会において、西洋および非西洋という二項対立的視点を越えた新たな国際関係学を学ぶ意義と必要性が高まっています。アメリカと日本、二つの視点から国際関係学を考えていく新しい挑戦です。

ラーニングスケジュール

立命館大学から学修を開始する「RU Home Students」は、入学後、最初の1年半を立命館大学で学びます。授業は全て英語で行われ、国際関係学部在籍する多くの留学生や、立命館大学で学修中のアメリカン大学の学生と共にグローバルな環境下で学びます。2回生の秋学期からアメリカへ学ぶキャンパスを移動し、4回生春学期までの2年間をアメリカン大学で学びます。4回生の5月末ごろに日本へ帰国、4回生の秋学期にもう一度立命館大学で学び、最後の1学期で4年間の集大成である卒業研究をまとめ、卒業します。

学修支援プログラム

JDPは、学生が4年間で二つの大学で学び、一つの学位を共同で授与されるこれまでにないプログラムです。プログラムでは、参加学生が着実に充実した4年間で過ごすため、様々なサポートプログラムを用意しています。米国の大学に直接進学する場合に比べて、英語能力向上の支援や進路・就職面のキャリア・サポートなど、日本の大学ならではのサポートを受けることができると同時に、アカデミック・アドバイザーといった日本の大規模大学では珍しい、国際基準の学修サポートが実施されます。

R 立命館大学 HOME	1年目		2年目		3年目		4年目	
	1 SPRING	2 FALL	3 SPRING	4 FALL	5 SPRING	6 FALL	7 SPRING	8 FALL
	立命館大学	立命館大学	立命館大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	立命館大学
	Core/Foundation/Cohort Courses					Instruction linked to Seminars and Senior Capstone Program		Senior Capstone Program (Seminar)
	Academic Skills (Building Foundations of Academic Writing)		Research Methods					
Japanese/English (if necessary)		Thematic and Regional Courses						

4年間の学び

充実した学部での学びを実現する上で、4年間の学びの流れを理解し、プランニングする。そして、どのように自分だけの学びとキャリアにつなげていくか思い描く。国際関係学部でどのような4年間を過ごしていくかは、あなたの無限の発想力と行動力次第。

4年間の 大学生活の設計

4年間の学びのプランを立てましょう。国際関係学部での学習、留学、課外活動、資格取得、就職活動などについて、4年間の中でいつ、どのように取り組むのか。現時点での目標を明確にし、スケジュールを立てましょう。



ライティング・チュートリアル

論文を執筆する際に必要な「アカデミック・ライティング」を身につけるための個別サポートプログラムです(日本語および英語)。学部の上回生や国際関係研究科の大学院生の1対1のサポートで、必要なスキルを磨きます。



プログラムごとに専門分野の主要概念を学びながら、英語の4技能を修得。グループワーク、プレゼンテーション、ディベート、クラス全体でのディスカッション等を行います。

専門分野の基本文献の精読に挑戦します。担当教員のサポートを受けながら、文献を読み込むトレーニングを行います。

専門演習や専門科目を通じて 専門的知見を深める

国際関係学部の学生は3回生から卒業まで、「専門演習(ゼミ)」を履修します。2年間、同じ担当教員のゼミに所属し、自分の興味ある分野を、興味を同じくする仲間と共に学び、学修の集大成である卒業研究の作成に必要な力を身につけていきます。

多様なゲストスピーカー

国際関係学部は、最先端の研究や、実社会と座学のつながりを重視し、多様なゲストスピーカーを招聘しています。外交や国際問題のエキスパート、ジャーナリスト、文化活動の専門家や、海外の大学の研究者等が頻繁に来学し、学生はレクチャーへの参加、ディスカッションを通じて、国際社会の最前線をゲストから学ぶことが出来ます。



就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学のキャリアセンターの専門スタッフが一人一人の学生を丁寧に支援します。

就職活動



Start!



1回生 春学期

- First Year Retreat
- 基礎演習

ゼミ形式で、大学での学び方や研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。

1回生 秋学期

国や国際機関といったアクターに扮し、国際政治や国際経済の大きな動きの中で「政策立案」、「交渉過程」などのプロセスを擬似的に体験することで、国際関係の動きを学びます。

- ブリッジ科目(BIS)の履修
- 国際関係学セミナーの履修
- グローバル・シミュレーション・ゲーミング(GSG)の履修

2回生 春学期

- ★プログラムに所属
- ※IR専攻のみ

2回生 秋学期

2回生

プログラムに所属*し
国際関係学の基盤を築く

※IR専攻のみ

プログラムごとの専門科目の履修、専門的な英語運用能力を養うための科目の履修が始まります。これら科目の履修、授業外での様々な活動を通じ、国際関係学の基礎を習得しましょう。

3回生 春学期

- ★専門演習(ゼミ)の履修

3回生 秋学期

4回生 春学期

4回生 秋学期

4回生

4年間の集大成
卒業研究の作成

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となるもの。国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

First Year Retreat

4年間の学びの計画を立てるため、丁寧なオリエンテーションが行われます。プログラム選択やゼミ選択、また留学等の様々な学びの機会や将来の進路選択等について、学部の教職員や先輩たちとともに模索し、「学びと成長」の礎を築きます。



基礎演習/Introductory Seminar

ディスカッションを通して
自分の意見を主張する力も身についた

金森 宏一郎 さん (IR専攻2回生)



国際的な論題についてグループごとにリサーチを行う際は、授業時間以外にグループで集まるので、自然に友だちを作ることができました。環境問題、経済、メディアなどさまざまな論題でディスカッションをすることによって、自分の関心の幅を広げることができ、人の意見を聞いた上で自分の意見を主張する力も身につきました。授業を通して積極的に行動することが、知識だけでなく、多くの経験を得ることに繋がったと感じています。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング(GSG)

ブラジルの外務大臣として参加し
問題解決のスキルも向上

アショクマル スリニディ さん (GS専攻4回生)



GSGで、私はブラジルの外務大臣として他国との強い関係を築き、鉄道部門で日本と連携して交通面の発展も遂げることができました。IRとGSが合同で行うので、英語と日本語のスキルが一気に上がり、グループで次々と生じる問題にグループで対応するので、コミュニケーションスキルや問題解決のスキルも向上しました。多くの授業でグループワークがありますが、最も大きな学びを得られたのがGSGだったと思います。

キャリア支援教育

行政、メディア、民間企業といった各業種に対する理解を深める「プロフェッショナル・ワークショップ」、実践にこだわらず、原理的・理論的に自らのキャリア問題を捉える「キャリア・デザイン」など、キャリア形成を見据えた正課科目を開講しています。



専門演習/Advanced Seminar

活発な議論の中で
新たな論点に気づかされることも

西岡 聖奈 さん (IR専攻4回生)



授業で学んだ知識を総合的に用いて、自分の視点から国際関係を考えるのが専門演習です。私は、日本文化における自文化と異文化の境界について研究しています。研究発表の機会があるので、わかりやすく論理的に伝える力も身につけることができました。発表後には意見交換も行います。論理的な説明が難しく苦戦している時に、先生や仲間から助言をもらえると励みになります。活発な議論の中で新たな論点に気づかされるのも専門演習の魅力だと思います。

卒業研究/Graduation Research

成長するたびに軌道修正した結果
今の私にしか書けない論文が書けた

ハフマン 美亜 さん (GS専攻2020年度卒業)



テーマは「要求する身体：整体の実践における情動的・感覚的アプローチ」。8回のフィールドワークと、学術的な理論との間を行き来しながらまとめたものです。多くの方にご協力いただいたフィールドワークを通して、からだや治癒に対する私の認識は狭いものだったと気づかされました。様々な理論に触れたことで、新しい視点を持てるようにもなりました。自分が成長するたびに軌道修正を重ねた結果、今の私にしか書けない卒業論文が仕上がりました。

授業紹介

クロス履修システム

両専攻では、大半の科目で同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講。各専攻の学生は、他専攻の科目を半分近くまで履修可能です。

日本語
開講英語
開講

など

など

IR

国際関係学
専攻

基礎演習
国際関係学
国際連合入門
平和学入門
法学
経済学

政治学
社会学
言語学
文化人類学
English for International
Studies (EIS)
初修外国語

国際経済学
国際政治学
国際文化・社会学
地域研究論
グローバル・シミュレー
ション・ゲーミング (GSG)

国際関係学セミナー
Bridge to International
Studies (BIS)
Intensive English (IE)
国際法
国際協力論
途上国政治論

欧米政治史
国際ジャーナリズム論
比較文化論
プロフェッショナル・
ワークショップ
東南アジア研究

ヨーロッパ研究
北アメリカ研究
東アジア研究
アフリカ研究
ラテンアメリカ研究
中東研究

専門演習
国際人権法
国際機構論
比較政治論
地域開発論
開発経済論

安全保障論
開発と食料
開発政策論
メディア・文化論
文化交流史
宗教と国際関係

国際貿易投資論
国際金融論
環境経済論
比較家族論
異文化コミュニケーション論
卒業研究

GS

グローバル・
スタディーズ専攻

Introductory Seminar
Theories of International
Relations
Introduction to United Nations
Introduction to Peace Studies
Politics for Global Studies

Economics for Global Studies
Sociology for Global Studies
Academic Skills (AS)
Kyoto and the Japanese Arts
Macroeconomics

Global Simulation Gaming
(GSG)
Global Studies Seminar
Introduction to Area Studies
International Law
Security Studies

Global Political Economy
Development Studies
Media and Society
Microeconomics
Global Environmental Issues

Cultural Awareness and
Communication
Race and Ethnicity in the
Modern World
Advanced Seminar
Peace and Conflict Studies

International Human Rights
International Organizations
International Finance
International Trade and
Investment

Global Civil Society and
Development
Global Sociology
International Migration
Topics in Identity

Advanced Topics in
International Relations
Graduation Research

など

JDP

アメリカン大学・
立命館大学
国際連携学科

立命館大学（京都）で受講する科目
Introductory Seminar
Theories of International
Relations
Macroeconomics
Microeconomics

立命館大学から学修を始める際の一例。学習スケジュール、選択する分野などによって選択できる科目は異なります。
Japanese Culture
Introduction to the United
Nations
Comparative and Global
Governance

Introduction to Gender
Studies
Security Studies
Japanese Politics
Japanese Society

Japanese Economy
Japan-United States Relations
Advanced Seminar
Graduation Research

アメリカン大学（ワシントンD.C.）で受講する科目
SISU-106 First Year Seminar
SISU-206 Introduction to International
Relations Research
SISU-212 China, Japan and the United
States

2020年度に開講を予定している科目の一例です。

SISU-306 Advanced International Studies
Research
SISU-312 Governance, Development, and
Security in Asia
SISU-359 Environment, Conflict, and Peace

SISU-368 Differences and Similarities in
Conflict Resolution
SISU-380 Topics in Global and Comparative
Governance
SISU-393 International Relations Theory

外国語の選択 (国際関係学科)

日本語を母国語とする入学者は、英語とフランス語・中国語・スペイン語・ドイツ語・朝鮮語のいずれかを、日本語基準留学生入学者は、英語と日本語を学修し、英語基準留学生入学者は、Academic Skillsと日本語を学修します。また、希望する学生は3回生以降、国連公用語であるアラビア語、ロシア語を履修することが可能です。

基礎演習 Introductory Seminar

1回生が入学直後から所属するゼミ形式の授業です。大学での学び方、研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。基礎演習のクラスは4年間で共に過ごす仲間づくりの場でもあります。担当教員だけでなく、オリターと呼ばれる先輩学生などが生活・学修の両面をサポートします。

基礎科目と基幹科目

General Education Courses & Foundation Courses

IR専攻では、法学、政治学、経済学など、GS専攻では、Politics for Global Studiesなどにより、国際関係学「理論」の基礎を築きます。

グローバルエデュケーションを支える国際英語プログラム

TOEFL®およびCEFRの国際標準規格を基にした能力別クラス編成（25名まで）を行い、専攻ごとに用意されている科目、English for International Studies (EIS)、Bridge to International Studies (BIS)、Academic Skills (AS)、Intensive English (IE) で英語による専門講義の履修（クロス履修）と交換留学に備えます。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング Global Simulation Gaming (GSG)

IR専攻とGS専攻を統合し、2回生全員が参加する実践型授業です。環境問題や核開発問題など年毎に統一テーマを決め、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアの役割を演じるロールプレイで国際交渉を行います。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力を磨き、リーダーシップを育む機会でもあります。

国際関係学セミナー（IRセミナー） Global Studies Seminar (GSセミナー)

IR専攻の四つのプログラムに制限されることなく、自由に選択した分野を、より専門的に学び始めます。IR/GSセミナーでは、担当教員のサポートを受けながら、各分野の古典や基本的文献の購読や読み込むトレーニングを行います。

専門演習 Advanced Seminar

3・4回生を通じて所属するゼミです。自分の興味ある分野を専門にする先生の下で興味を同じくする仲間と学ぶ2年間であり、卒業研究に向けて準備をする場でもあります。すべての学生がゼミ（専門演習・Advanced Seminar）に所属し、切磋琢磨しながら卒業研究の基礎となるタームペーパーを作成します。

地域研究科目 Area Studies Courses

専門分野および研究課題を選択するとともに、具体的にその分野に関与する特定の「地域」に焦点を当て、他の地域（多くの場合、日本）と比較しながら、研究課題をさらに深く掘り下げます。その範囲は、北アメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、日本、アジア、東南アジア、中東、アフリカなど、オセアニアを除くほぼ全域に及びます。

固有専門科目

Core Program Courses

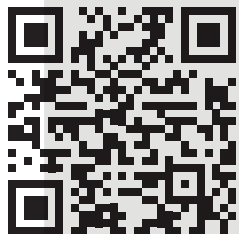
国際関係の諸側面に関わるさまざまな専門科目を設置しています。なかでも3回生以降は、比較政治論、国際機構論、開発政策論、メディア文化論、International Organizations, Global Civil Society and Development, Global Sociologyといった、各プログラムや各クラスターにおける理論を深く学びます。これらを通して複雑なグローバル社会を総合的・立体的に把握し、自らの問題意識の醸成に繋いでいきます。

卒業研究 Graduation Research

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、自分の学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となります。卒業研究を通じて、国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

キャリア選択と支援

就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学のキャリアセンターの専門スタッフが一人一人の学生を丁寧に支援します。就職活動中は東京や大阪のキャンパスでも支援が受けられます。オンキャンパスで行われる就職セミナーや企画も多数開催しています。また、国際連携学科の学生は、ワシントンD.C.においてさまざまな企業の就職のワークショップに参加できると同時に、日本からも支援を受けることができます。



www.ritsumeai.ac.jp/

ir/study

国際関係学とは何か？

教員が国際関係学の視点で現代社会のトピックを紐解き、学部の学びや自身の研究を紹介する特設ホームページです。国際関係学で何を学ぶのか、その可能性が見えてくるかもしれません。

KEYWORD #01

国際協力・開発援助

東南アジアで体験する
これからの国際援助の在り方



嶋田 晴行

KEYWORD #02

新しい脅威

麻薬産業が
国や国際関係に与える影響



福海 さやか

KEYWORD #03

日本再発見

自分の国を正しく知ることが
国際化につながる



ライカイジョンボル ディボル

KEYWORD #04

先端科学技術と グローバル・ロー

ナノテクノロジー、AI、ロボット兵器。
科学技術のリスクを国際社会はどう管理するか。



川村 仁子

KEYWORD #05

メディア・リテラシー

世界を理解するためには
メディアへの理解が不可欠。



コガ-ブラウズ スコット

KEYWORD #06

国際経済学

人間／国家の次の行動を
経済学で予測する



矢根 遥佳

Global Education



グローバルエデュケーションを支える国際英語プログラム

TOEFL®およびCEFRの国際標準規格を基にした能力別クラス編成(25名まで)を行い、専攻ごとに用意されている科目、English for International Studies (EIS)、Bridge to International Studies (BIS)、Academic Skills (AS)、Intensive English (IE)で英語による専門講義の履修(クロス履修)と交換留学に備えます。

Point #01

オリエンテーションで行うPlacement Testで四つのレベル(上級・準上級・中級・基礎クラス)に分け、各自の学習習熟度に合った到達目標を設定。

Point #02

交換留学を希望する学生は選考の上、Intensive English (IE)を週3コマまで履修可能。

Point #03

国際関係学専攻生は、2年次以降に選考の上、Academic Skills (AS)を履修可能。

	1年次					2年次				3年次
	第1学期		第1学期（選択）	第2学期		第2学期（選択）	第1学期	第1学期（選択）	第1学期（選択）	第2学期
IR 国際関係学専攻	EIS I 週2コマ	EIS II 週2コマ	IE I-III 各週1コマ 留学希望者	EIS III 週2コマ	EIS IV 週2コマ	IE IV-VI 各週1コマ 留学希望者	BIS I・II 各週1コマ	IE I-III 各週1コマ 留学希望者	AS I-III 各週2コマ	BIS III 週1コマ →クロス履修
										留学へ
GS グローバル・スタディーズ専攻	AS I 週2コマ	AS II 週2コマ	-	AS III 週2コマ		-	→英語による専門講義			
							→英語による専門講義			留学へ
JDP 国際連携学科	AS I 週2コマ	AS II 週2コマ	IE I-III 各週1コマ	AS III 週2コマ		IE IV-VI 各週1コマ	→英語による専門講義			アメリカン大学へ

IR 国際関係学専攻	IR GS JDP 国際関係学部共通(選択)
BIS I・III リーディング・クリティカル・シンキング EIS II オーラル・コミュニケーション EIS IV アカデミック・ライティング	BIS I・II 国際秩序平和/国際公務/国際協力開発/国際文化理解各プログラム対応 BIS III テーマ自由選択
GS JDP グローバル・スタディーズ専攻 および 国際連携学科	IEIS I・IV 語彙とリーディング・スキル IEIS II・V リスニング・スピーキングスキル IEIS III・VI 文法とライティング・スキル
AS I Learning theories, historical developments and current issues in IR while developing reading and critical thinking skills AS II Academic writing skills, research and referencing, and IT skills. Autonomous learning and team work AS III Solidification of writing and research and academic interaction skills. Conduction of in-depth research on a topic of a student's choice within IR	

Voice



西岡 聖奈さん
IR専攻4年生

国際関係学部で英語力を伸ばすには、語彙を増やし、正しい英文法を覚えようとするよりも、授業を通して実践的に学ぶこと、数多くの経験を積むことの方が有効だと思います。例えばプレゼンテーションをする時は、英語の資料を読み、レポートの執筆や発表資料の作成を行い、人前で話し、人の発表も聴くことで英語力を総合的に伸ばすことができます。入学当初は、パワーポイント資料の作成にも苦戦していましたが、経験を重ねるうちにスピーキングやライティングの力も大きく伸びていきました。文法や発音に自信がなくても、失敗を恐れず、自分の考えや研究の成果を伝えようと熱意を持って発表したり、レポートを書いたりすることが英語力を高めることにもつながったのだと思います。ディスカッションで積極的に発言することも大切です。考えを上手く話せず悔しい時もありましたが、失敗の経験が次への糧になりました。初めはハードルが高く感じるかもしれませんが、量をこなしていくと、力がついたことが実感できるようになるはずです。

[全学募集] 海外留学プログラム

留学の目的や意義は一人ひとり違うはず。立命館大学ではそれぞれの目的や状況に応じた多様な留学プログラムが提供されています。2019年度には144名の国際関係学部の学生が留学・国際プログラムに参加したほか、ボランティアやフィールドワーク等、独自に海外渡航をする学生も多数います。留学準備は国際教育センターが丁寧にサポートし、危機管理についても事前に情報提供を行います。

*新型コロナウイルス感染症の拡大状況等に応じて、プログラム実施の有無等に変更が生じる場合があります。最新の情報は必ず募集要項にて確認してください。

長期留学プログラム

| 半年～2年間

語学力を高めながら、外国語による講義を受けるプログラムや、正規の学部留学、またはそれに匹敵するプログラムで自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主要な目的としたプログラムがあります。正規の学部留学の場合は、現地の正規学生と同様に授業を受け、単位取得を目指します。多くの国際関係学部生が長期留学に参加しています。

代表的な留学プログラム

- 立命館・UBCアカデミック・イマージョン・プログラム**
留学期間：8ヶ月
留学先：カナダ
- 立命館・交換留学**
留学期間：半年～1年間
留学先：世界29ヶ国・地域・135大学
- 立命館・ASEANで学ぶ国際PBLプログラム**
留学期間：4ヶ月～5ヶ月間
留学先：インドネシア・タイ
- DUDP(学部共同学位プログラム)**
留学期間：2年間
留学先：アメリカ

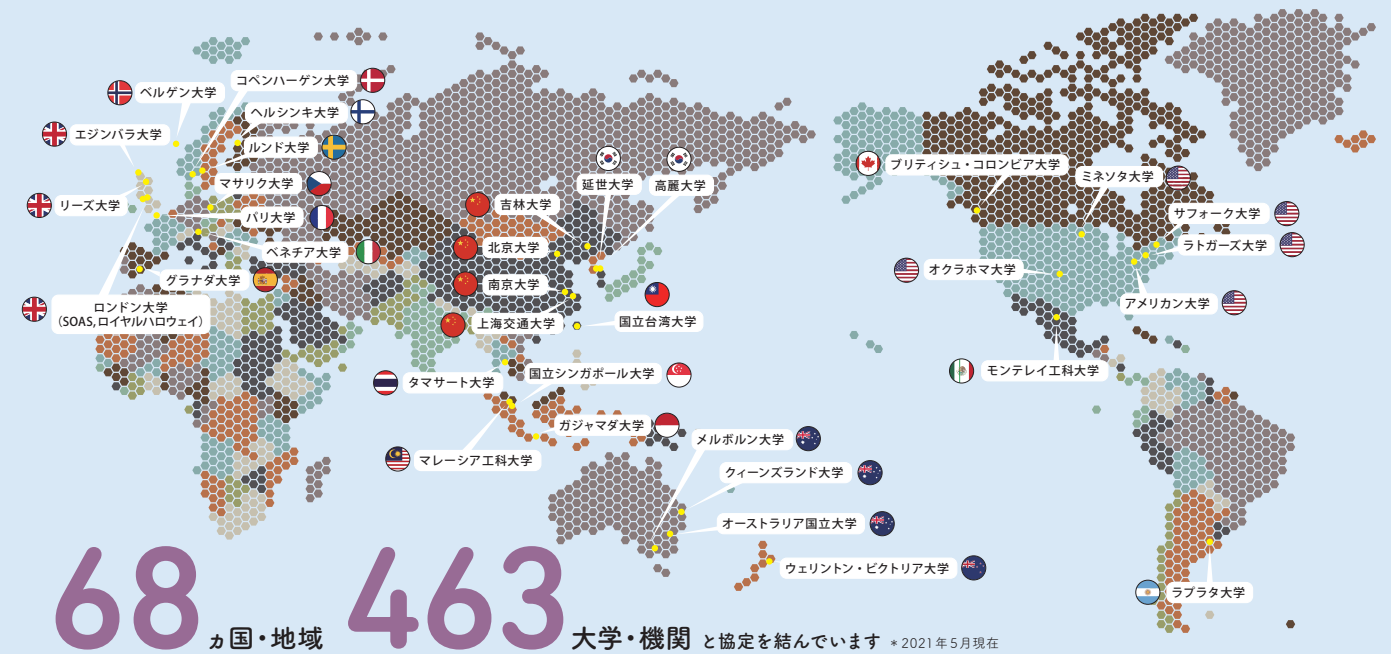
1セメスター留学プログラム

| 4ヶ月～6ヶ月

長期留学プログラムも視野に入れた語学力の向上と現地での外国語による講義の受講を目的としたプログラムです。語学レベルが中級程度の方を対象に、特定のテーマについての講義やフィールドワークを行います。

代表的な留学プログラム

- 立命館・カリフォルニア大学デービス校**
留学期間：6ヶ月
留学先：アメリカ
- 立命館・マラエック大学**
留学期間：4ヶ月
留学先：マレーシア
- 立命館・ヨーク大学**
留学期間：4ヶ月
留学先：イギリス
- 立命館・ワシントン大学**
留学期間：4ヶ月
留学先：アメリカ



短期留学プログラム

| 1週間～7週間

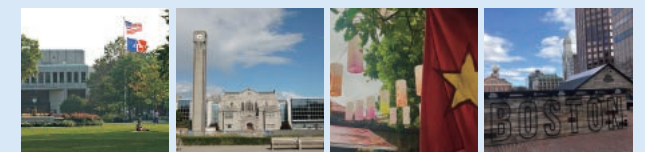
語学力の向上と異文化体験を主な目的としたプログラムです。海外への渡航経験が少ない方や語学レベルが初級程度の方を対象に、フィールドトリップや集中的な語学学習を通じて異文化理解を深めます。

代表的な留学プログラム

- Global Fieldwork Project**
留学期間：1週間
留学先：ベトナム、マレーシア、カンボジア、タイ、インドネシア、台湾
- 現地で学ぶ初修語セミナー**
留学期間：4週間
留学先：台湾、中国、韓国、フランス、ドイツ、スペイン、メキシコ
- 異文化理解セミナー**
留学期間：4週間
留学先：カナダ、シンガポール、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド

奨学金

立命館大学では、海外留学プログラムに参加する学生のみなさんを支援する奨学金制度があります。その1つである「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」(給付型)は、参加費用の一部の補助を通じて、みなさんの海外留学プログラムへの参加・修了を奨励しています。



Voices

国際関係学部の学生は実際にどんなことを、どんなふうに学んでいるのか？
ゼミ、課外活動など、最新の情報、生の声をWebページで紹介しています。

www.ritsumei.ac.jp/
ir/admission/
opencampus/
続きはWebページをご覧ください



Careers

VOICE

担当するコンテンツの魅力を世界中、より多くの人に届けたい

株式会社バンダイナムコエンターテインメント

内田 泰歩 さん

2021年国際関係学部卒業



アメリカへ交換留学した時、アニメやゲームなどのコンテンツを通じて現地の学生と親交を深めることができました。この経験から日本のコンテンツの海外展開に関心を持ったことが、現在の会社を志望するきっかけになりました。

交換留学では多くのことに挑戦しました。授業で何度もプレゼンテーションを行ううちに、人前で英語を話す緊張や不安をなくすることができました。また4年間の特別カリキュラムを1年で終了できるよう直談判し、現地の小学生放課後児童クラブのボランティアや学内の国際イベントなどにも参加。本当に濃い1年を過ごしました。これらの経験は就職活動でも大きくアピールし、高い評価をいただきました。

今は研修が終わり、家庭用ゲーム機の海外マーケティング職に配属されたところです。海外の販社との会議に参加したり、資料を翻訳したりといった仕事を通して、想像していた以上に、日本のコンテンツを楽しむ海外の人が多くいることを実感しているところです。今後は海外ユーザーの目線も意識してコンテンツを作ることが必要な時代になるでしょう。いつかは、自分の担当するコンテンツの魅力がより多くの日本や世界の方に届くような仕事に挑戦したいと考えています。

VOICE

食の安全を守るスペシャリストとして世界で活躍したい

海外貨物検査株式会社

布施 晶人 さん

2021年国際関係学部卒業



世界規模でモノが流通する今、農産物の検査を通して食生活の「安心・安全」に貢献できると感じてこの会社を選びました。現在は、農産物や食品の残留農薬検査をはじめとするさまざまな検査業務に携わっています。食の安全を守ることはもちろん、海外にある研究所と連携しながら検査手配を整えることによって円滑な国際貿易にも貢献できる、とてもやりがいのある仕事です。

学生時代はゼミでの文化研究に力を入れていました。ある大衆文化をさまざまな角度から考察、批判することによって新たな考えを生み出そうとするものです。幅広い学問分野を引用しながらの研究で柔軟な発想力を養い、多角的に物事を考える能力も身につきました。イギリスへ留学し、現地での生活や学友との切磋琢磨を経験したことも私にとってかけがえのないものとなりました。

今後も、食の安全を守るという役割を果たすために、食品輸入に関する法令等を学ぶなど日々精進したいと思います。入社後2～3年目には海外の研究所で働く機会もあります。在学中に身につけた語学力とコミュニケーション能力を活かし、的確な検査サービスをアレンジできる検査員のスペシャリストとして、世界を舞台に活躍したいと考えています。

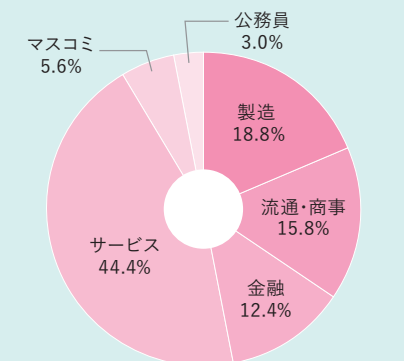
進路・就職状況

開設30年をむかえ、世界の第一線で8,000名以上の卒業生が活躍

世界に広がるネットワークを活かして、国際的な機関やメーカーなど企業の国際業務セクションに多く採用されています。世界の有力大学院にも多数進学しています(ジョージ・ワシントン大学、オックスフォード大学、ジョーンズ・ホプキンズ大学など)。

2020年度卒業生 就職先一例

(株)アイシン	ソフトバンク(株)	日野自動車(株)
伊藤忠丸紅鉄鋼(株)	大和ハウス工業(株)	(株)ファーストリテイリング
オリックス(株)	中国電力(株)	富士通(株)
(株)キーエンス	東洋紡(株)	プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(株)
キャタピラー・ジャパン合同会社	独立行政法人国際交流基金	本田技研工業(株)
京セラ(株)	凸版印刷(株)	(株)毎日新聞社
(株)クボタ	(株)ニコン	三井物産(株)
(株)島津製作所	(株)ニッポン	(株)三菱UFJ銀行
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)	日本通運(株)	郵船ロジスティクス(株)
(株)SCREENホールディングス	日本電気(株)	楽天(株)
住友商事グローバルメタルズ(株)	日本放送協会	国家公務員一般職
(株)住友倉庫	日本アイ・ピー・エム(株)	地方公務員(上級職)



◎円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。
◎端数処理の関係で100%にならない場合があります。